



つなぐ「奉仕の心」これからも
2024年向陽高等学校創立100周年



学校法人向陽学園
歴史編集室発行
TEL.0957(52)3210

「向陽高校インターアクトクラブ」結成49周年

本校インターアクトクラブは、昭和46年6月に結成され「校外清掃」や「各種募金活動」、また、地域の「福祉」や「保育」「食」に関わる「奉仕活動」を行っています。その後援者である「大村ロータリークラブ」の第4代会長（1963～64）を、烏山武氏が務められました。



向陽高校生 表彰さる

昭和38年向陽新聞第19号より

「うけつがれた奉仕の精神」

本校生徒が彼杵駅で通学列車を待つ間を利用して、自発的に待合室の生花のとりかえや清掃の美化作業に奉仕して感謝状をいただいた。先輩から後輩へと奉仕の精神が受けつがれて、このたびの表彰となった。

奉仕の聖火大村市の表玄関へ 門鉄局長より表彰

本校1年生汽車通学の有志のもので、大村駅の清掃に奉仕して明るい旅への交通道德の高揚に一役かって、旅人とともに自らの人間性を高めている。

感謝のお礼状

かねてから 国鉄業務にご理解をいただくと共に、庭園の美化や駅舎の清掃等、なにかとご協力を賜り誠にありがとうございます。おかげさまで駅も大変きれいになり、ご利用いただく皆様から明るく気持ちのよい旅を楽しんでいただけるようになりました。ここにあつくお礼申し上げます。

昭和38年7月 門司鉄道管理局長

ひえつき節の五木小学校から感謝状

この夏熊本県下を襲った豪雨のため、山地一帯の緑の村を一瞬间にして消してしまうほどの大災害に泣く五木小学校の児童たちに、励ましの意味で自分達のお小遣いから見舞金を贈った（商業科1年1組）善意が、この程本校に届いた感謝状によって初めて明るみに出た。本校でも五木の児童や先生たちとともにそのゆかしい美しさに感激している。

建設大臣より感謝状

本校は昭和39年度道路愛護月間にあたって道路美化に尽力したため、「小山長規建設大臣」より感謝状と表彰盾、なお生徒全員に鉛筆半打宛が褒美として授与された。

昭和39年向陽新聞第22号より



<シリーズ>2024年「向陽高等学校創立100周年」へ向けて

松尾 心愛 さん（IAC部長、看護科2年）

インターアクト部は、主に募金活動や福祉施設でのボランティア活動、他校との交流などを行っています。私はインターアクト部に入学して1年が経ちましたが、私が一番心に残っていることは、福祉施設でのボランティア活動です。高齢者の方を車椅子にさせて案内しながらお話している中で、笑顔で接するということの大切さを学びました。

また、誰かのために役に立てるといふことにとっても喜びを感じました。失敗もたくさんありましたが、その分学ぶことも多くあり、自分自身が成長できるすてきな部活動です。

インターアクト部では、本校の建学の精神である「奉仕の心」を大切に、すべての活動に取り組んでいます。今年は、コロナウイルスの影響で活動することが難しい時期ですが、その中で私たちにできることを考えていきたいです。

まずは、今の世界の状況を知り、自分自身の考えを持ち行動を起こす。

そして、その行動を周りに伝え発信していくことだと思います。この活動を根気強く継続していけるような部活動にしていきたいです。



昭和46年クラブ設立認証式



平成6年インターアクトクラブ



令和元年度卒業アルバムより

いま高校では! 令和2年度「生徒総会」開催 / 6月11日

例年であれば、新役員が体育館で全校生徒に各議題を説明し質疑を受けますが、今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、各教室の生徒に校内放送で資料の説明や報告がありました。

【令和2年 生徒会スローガン】

「Shin」～信・新・進～

信・・・自分を信じる。仲間を信じる。

新・・・新しいことに挑戦する。

進・・・進み続ける。進化。進歩し続ける。

【人権宣言】

「十人十色～個性を認め『違い』を当たり前～」

【善意の募金を贈る】

昨年の向陽祭での募金と売上金を、東日本大震災・熊本地震災害・台風19号災害義援金として送金しました。

生徒会長 副島 紅音

【向陽祭テーマ・キャッチコピー】

テーマ 「青春革命」

キャッチコピー 「新たな歴史を刻め」



令和2年 生徒会役員

※生徒会も新たなことにチャレンジして行きます。

写真は令和元年生徒総会

休業期間中、入学したばかりのパティシエ科1年生が自宅で作った『～「お家でお菓子」応援団～』



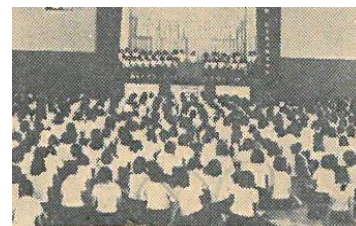
生徒会の発足にあたって

生徒数も千名を超す状態になり、全校生徒が集う場所がなく学校行事に不便をかけていたが、多年の念願かなって体育館が完成し諸種の行事もできる様になった。したがって今までの生徒会の在り方も「スイス」の政治形態のような比例代表制で、各学年より選出された委員会で議決されていたものがいよいよ全員が一堂に集い、各自がお互い発言して意見を述べられるように

なった。そこで新たに向陽高校生徒会として発足する事になったのは大変嬉しく思う。「全校生徒のために」それをモットーとして、和気あいあいたる学園生活ができるよう希望する。

鳥山 武 校長(本文より一部抜粋)

昭和50年向陽新聞48号より



<シリーズ> 2024年「向陽高等学校創立100周年」へ向けて



前川 綾香 先生 (保健体育、バスケット部顧問)

2024年、向陽高校は100周年を迎えるわけですが、これまで築き上げてきた伝統や歴史があるからこそ今の向陽高校があるということを改めて感じています。100周年への思いを語るには、向陽高校勤務4年目の私でいいのかという気持ちはありますが、この学校を巣立っていく生徒たちが「私は向陽の卒業生です」と胸を張って誇れる学校を創る一助でありたいと思います。私は着任時から女子バスケットボール部の顧問をさせて頂いています。女子バスケットボール部は、過去県高総体でも優勝したことがあり、周囲から「古豪」と呼ばれる伝統のあるチームでした。私は、その伝統あるチームを復活させ、「強豪」にし、県大会で優勝することを目標にして取り組んでいます。また、バスケットボールを通し、一人の高校生として当たり前のことを当たり前に、成長してほしいという思いで指導をしています。向陽高校の生徒の半分以上は、高校卒業と同時に社会人になります。さまざまな社会のニーズに合わせて「変わるもの」はあると思いますが、「変わってはいけないもの」もあると思います。向陽高校が100年間つないできた建学の精神「奉仕」の心を忘れず、社会に出て活躍できる人を育てていきたいと思っています。

